

福島復興「民泊など活用」

教育関係者らがアイデア

人材の交流・育成を支「テラシー・ラボ（東京・山市で、教育による復興援する一般社団法人、リ「渋谷）」は14日、福島県郡「アイデアを話し合うイベ

る一般社団法人、ウオイス・オブ・フクシマ（同県須賀川市）との共催で、年2〜3回、県内各地で開く方針だ。

今回はフェイスブックなどでの呼びかけで、教育関係者や学生らが参加。「放射線との共存」を学習したり、ふるさとの復興をめざす一体感を醸成したりする機会をつくる必要があるとの指摘があがった。県内の小学校教諭、菊地南央さん（29）は「民泊ツアーの発想は修学旅行にも生かせるのではないか」と語った。仙台市の大学生、熊谷麻那さん（19）は「社会人の考えを学ぶ良い機会だった」と話した。

ントを初開催した。東京電力福島第1原子力発電所事故に伴う人口流出や風評被害を抑える対策について、県内外から来た約30人の有志が議論。日常生活を知る「福島民泊ツアー」や、農業の通年体験などの提案が出た。福島発の情報を発信す